

『アジア・アフリカ言語 文化研究』について

近藤 信彰
浅井万友美

『アジア・アフリカ言語文化研究』

- Journal of Asian and African Studies
- 1968年2月創刊、年2回刊行
今号が93号。B5版 2段組（欧文は1段）
- 発行主体：東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所(AA研)
人文社会系唯一の全国共同利用研究所として1964年創立 現在所員36名
言語学・歴史学・人類学

「紀要」？

- 通称「ジャーナル」国際学術誌
- 発行はAA研だが、執筆者は外部が圧倒的、投稿に資格、会費不要
- 査読あり 外部にも依頼
- (今のところ) 執筆枚数制限なし
- 本文は日本語、英語、フランス語
資料にはアラビア語等も可
要旨は英語のみ

93号の目次

■ 森田健嗣

戦後台湾における脱日本化再考——代行された脱植民地化の視角から

■ 倉沢愛子

九・三〇事件とインドネシアの華僑・華人社会——レス・プブリカ大学襲撃事件から見えること

■ 山口昭彦

「イランのクルド」とサファヴィー朝の「強制」移住政策

■ 武内康則

契丹語の数詞について

■ 岩間春芽

世帯間比較から見える「理想的な世帯」——ネパール北西部における援助と教育の広まりによる人々の社会的位置づけの変容

ISSN 0387-2807

アジア・アフリカ言語文化研究
JOURNAL OF
ASIAN AND AFRICAN
STUDIES NO. 93
March 2017

森田健嗣

戦後台湾における脱日本化再考
代行された脱植民地化の視点から

倉沢愛子

九・三〇事件とインドネシアの華僑・華人社会
レス・プブリカ大学襲撃事件から見えること

山口昭彦

「イランのクルド」とサファヴィー朝の「強制」移住政策

武内康則

契丹語の数詞について

岩間春芽

世帯間比較から見える「理想的な世帯」
ネパール北西部における援助と教育の広まりによる
人々の社会的位置づけの変容

外観

データ

■執筆者における所員の割合

2014年1/10, 2015年1/9, 2016年 2/7
2017年0/5 = 4/31 (13%)

■掲載論攷の種類

論文 23 資料 7 書評 1

■言語 日本語 25(81%) 英語 5(16%)

フランス語1 (3%)

海外からの投稿は一定数あり

編集体制

- 編集専門委員会

学外の委員 6名を含む

大方針の決定

- 所内編集担当 6名

- 編集事務 1名

研究所の性格上、所外の意見を反映させるしくみ。

査読体制

- 完全ブラインド
- 基本的に2名の査読者
- 分野が多岐にわたる困難
- 学会誌ではないので、外部者が査読依頼に応える義務はない
- 査読の長期化

データ 2

	投稿総数	うち国内より	うち海外より	掲載数
93号 (2017)	36	20	16	5
92号 (2016)	25	17	8	5
91号 (2016)	12	5	7	2
90号 (2015)	17	10	7	4
89号 (2015)	8	7	1	5
88号 (2014)	8	8	0	4
87号 (2014)	12	8	4	6
	118	75	43	31

投稿の37%は海外から 全体の掲載率は27%

問題点

- 投稿数の増減、査読に耐える原稿の数
- さまざまなプロジェクト出版物との競合
- 特集号 所内関係のものが増え、
「紀要化」につながる恐れ
- 国際的に格を上げる必要
予算・人員の困難

問題点 2

- 予算の減少
- 東京外大のオープンアクセス宣言
(2017/2/7)

将来的には、完全電子雑誌化を強いられる可能性

AA研の顔として重要。

問われているのは、研究所そのもののあり方、方向性

ご静聴ありがとうございました

